

幼保小の連携に即した音楽関連授業の考察

— 保育者の音楽意識の調査から —

A Study of Music Tuition from Relation between Kindergarten, Nursery and Elementary School

— *Research on the Consciousness of Music* —

星野 英五 *Eigo Hoshino*

(人間発達学部)

I. 動機

名古屋芸術大学人間発達学部子ども発達学科は、2016年度で10年目を迎えている。本学部学生は保育士資格、幼稚園・小学校教諭免許を同時取得する現状が多い。本学部は附属幼稚園や子どもコミュニティセンターを併設し、近隣の小学校との連携を深め、幅広い年齢層の子どもを対象にする施設を整備しており、理論と実践が結びついた教育者・保育者を育てるのに適した環境にある。この素晴らしい環境を充分いかし、幼児期と学童期の発達の連続性を考慮に入れ、より専門性に即した子どもの音楽活動を実践できる学生を養成することが課題である。

小学校における音楽科指導内容において幼稚園・保育所とどのように連携を図っていくかを考えた時、保育内容五領域「健康」「人間関係」「環境」「言葉」「表現」の内、特にかかわりの深い領域としては「言葉」「表現」があげられる。小学校低学年においては、幼稚園で習った歌を一定の学習内容を取り出すための教材として用い工夫することが挙げられている。

今までの研究から、音楽教育の基盤は幼児教育によって形成され、学生の幼少時代の音楽活動の思い出が保育・教育者の音楽活動の捉え方に大きく影響していることが分かる(2015, 星野)。現在日本の学校教育制度は、すべての子どもが等しく教育を受けるという意味で、小学校がスタートとなるが、多くの子どもたちは、幼児期を幼稚園・保育所・こども園で過ごしている。この子どもの教育のスタート地点直前の敏感期といわれる大切な時期に子どもとかかわる幼稚園・保育所・こども園の保育者は、幼児期と児童期の音楽活動の流れをどのように捉えているのであろうか。現状では、幼稚園・保育所での生活は小学校と大きく違い、幼稚園・保育所と小学校の関連を考える必要があると言われている。遊びの中で育まれる幼児の表現活動が小学校低学年の学習活動にどう発展していくかを理解することが重要である。本研究は、現職で乳幼児を対象に保育実践を行っている保育者の音楽活動への向き合い方と小学校の音楽活動の捉え方を検討し保幼小連携を念頭とした大学での音楽授業展開を考えていくものである。

II. 研究方法

対象：愛知県内保育所・幼稚園・認定こども園の保育者119名

(有効回答数98名；男性7名・女性91名)

(公立幼稚園1名・私立幼稚園11名・公立保育所51名・私立保育所31名・認定こども園4名)

時期：2015年11月／方法：郵送による質問紙調査

III. 結果と考察

(1) 保育者が考える子どもの幼稚園・保育所時代と小学校時代音楽活動の違い

表1 幼稚園・保育所と小学校音楽活動の違い [自由記述]

〈幼稚園・保育所〉	〈小学校〉
1. 身近に親しみを感じる活動	⇔ リズム感等を学ぶ活動
2. リズムや歌の基礎作りをする	⇔ 表現力や抑揚をつけて発展的な音楽活動を行う
3. 遊びの中で自然に行う活動	⇔ 教育的要素を含んだ活動
4. 表現や音楽に触れる楽しむ表現活動	⇔ 集団で合わせる為の音程等を学ぶ
5. 遊びを通じたもの	⇔ より深い知識も含め学ぶためのもの
6. 常に楽しい活動を心掛ける	⇔ 教科的なものになってくる
7. 上手下手に関係なく楽しむ	⇔ 個別の努力と子ども同士の調和を意識する
8. 与えられた音楽を行う	⇔ 自ら考え歌や楽器を演奏を工夫する
9. 園によって大きく違う	⇔ 学習指導要領ある程度統一されたもの
10. 歌や踊り楽器を経験する	⇔ もう少し専門的な読譜力
11. 幅広く音楽に触れる	⇔ 演奏技術や知識を理解する
12. 力任せに歌や体を動かす	⇔ 工夫しお互い歌い聞いてもらう (鑑賞)
13. 音感や感性を養うベース作り	⇔ 更に音楽活動に深く関る
14. 音楽に親しみ興味や人間関係作る	⇔ 知識や基礎を学ぶ
15. 様々な保育場面で使われる	⇔ 教科として歌や楽器を工夫し表現する
16. 楽しく取り込める	⇔ カリキュラムに沿い苦手感が出る
17. 遊びの中での音楽活動	⇔ 教科の中での音楽活動
18. 活動の楽しさ味わう	⇔ 感性・表現・心情を深め楽しむ
19. みんなで歌う楽しさ	⇔ 詳しく知り更に興味を持つ
20. 楽しむことが重要	⇔ 周りと合わせ状況に合わせる

表1の1～20は、保育者が「子どもの幼稚園・保育所時代の音楽活動」と「小学校の音楽活動」の違いの自由記述した主なものを表したものである。「3. 遊びの中の自然な活動⇔教育的要素を含んだ活動」「17. 遊びの中での音楽活動⇔教科の中での音楽活動」の記述に代表されるように幼稚園・保育所時代の音楽活動ではリズムや歌や楽器等基礎的な活動を重視する傾向にあり、小学校時代の音楽活動ではさらに発展的な学習としての活動であるという考え方が多い。「20. 楽しむことが重要⇔周りと合わせ状況に合わせる」の記述のように、乳幼児の自発的な遊びの中の活動と一定の学習内容の教科の中の活動の違いが大きいという捉え方をしている。

(2) 大学の授業に期待すること

表2 保育者からみた大学の授業で重視したいもの

項 目	保育者	小学校教員
1. 音程リズムに気をつけて歌える	60名 (61.2%)	71名 (72.4%)
2. タンブリンや色々なリズム楽器を扱う	54名 (55.1%)	58名 (59.2%)
3. 子どもに合わせて伴奏ができる	55名 (56.1%)	55名 (56.1%)
4. わらべ歌で遊ぶ	70名 (71.4%)	>19名 (19.3%)
5. 歌詞の内容や曲想を味わった上で表現工夫して歌う	24名 (24.4%)	<52名 (53.0%)
6. 絵本や詩にメロディーつける事ができる	17名 (17.3%)	19名 (19.4%)
7. 幅広く主体的に音楽鑑賞する	12名 (12.2%)	<39名 (39.8%)
8. 音楽理論が分かる	6名 (6.1%)	<35名 (35.7%)

表2は、大学の授業に期待するものについて、『非常に重要だと思う』『やや重要だと思う』『あまり重要だと思わない』『全く重要だと思わない』の4段階評定の内『非常に重要だと思う』と回答したものである。日本古来の伝統音楽である「わらべ歌で遊ぶ」は保育者が小学校教員より高い ($p<.05$)。「歌詞の内容や曲想を味わい表現工夫し歌う」「幅広く主体的に音楽鑑賞する」「音楽理論が分る」は小学校教員が保育者より高い ($ps<.05$)。歌の表現工夫・鑑賞・音楽理論は小学校教員が高く、遊びと学習面での回答の差が出てきており、自由記述(表1)の結果がそのまま大学の授業に期待するものにオーバーラップされている。音楽を感覚的に捉える傾向は小学校低学年にも見られるので、幼児期から学童期への音楽活動の移行を系統立てて考えることができる力量と視野の広さが必要になると考える。

(3) 音楽的保育観・教育観

表3 音楽的保育観・教育観

項 目	保育者	小学校教員
1. 楽しく音楽に関り音楽に興味関心を持つ	76名 (77.6%)	>62名 (63.3%)
2. 歩く走るスキップ等リズムカルな動き楽しむ	69名 (70.4%)	>49名 (50.0%)
3. 音楽発表会は日常的な活動から結びつける	61名 (62.2%)	51名 (52.0%)
4. リズム活動は子どもの心身の発達に影響大	58名 (59.2%)	50名 (51.0%)
5. 生活の中で耳にする音との関りを大切にする	56名 (57.1%)	51名 (52.0%)
6. 鑑賞曲は短く子どもに分り易いものを選ぶ	44名 (44.9%)	>26名 (26.5%)
7. 楽しさ活発さ静かさ優美さ等曲の感じが分る	23名 (23.5%)	<46名 (46.9%)
8. 歌の歌詞に表す情景や気持ちを想像できる	20名 (20.4%)	<49名 (50.0%)
9. 合奏指導は幼児期に体験させるようにする	36名 (37.3%)	41名 (41.8%)
10. 穏かなメロディーは優しさや思いやりを育む	37名 (37.8%)	35名 (35.7%)
11. わらべ歌遊びは日常的にとり入れる	52名 (53.1%)	>13名 (13.3%)
12. 感じた事をそのまま動きのリズムで表現	28名 (28.6%)	26名 (26.5%)
13. 音楽環境が子どもの心理状態に影響する	29名 (29.6%)	25名 (25.5%)
14. CD等の音響機器は音質のよいものを選ぶ	27名 (27.6%)	34名 (34.7%)
15. ピアノ等おけいこごとは幼児期から取入れる	12名 (12.2%)	11名 (11.2%)

表3は、音楽的保育・教育観について『非常に重要だと思う』『やや重要だと思う』『あまり重要だと思わない』『全く重要だと思わない』の4段階評定の内『非常に重要だと思う』と回答したものである。『非常にそう思う』と回答した項目をあげると「楽しく音楽に関り興味関心を持つ」「わらべ歌は日常的に取り入れる」「鑑賞曲は分かりやすいもの」「スキップ等リズムカルな動きを楽しむ」は保育者が高い (ps<.05)。「歌詞に表す情景や気持ちを想像できる」「楽しさ優美さ等曲の感じが分る」は教育者が高い (ps<.05)。基本的な興味関心・鑑賞曲の選択・リズムカルな動きは保育者が高い。想像力を育むことや情景を読み取ることは教育者が高い。遊びを中心としたものと学習への発展の違いが音楽にいだく意識として表れている。

(4) 音楽的保育者観・教育者観

表4 音楽的保育者観・教育者観

項目	保育者	小学校教員
1. 子どもの発達に合った音楽指導ができる	65名 (66.3%)	66名 (67.3%)
2. 子どもに合わせて伴奏できる (ピアノ)	57名 (58.2%)	61名 (62.2%)
3. 音楽に合わせて体を動かすことができる	64名 (65.3%)	>51名 (52.0%)
4. 音楽が好きである (歌うこと・鑑賞等)	55名 (56.1%)	53名 (54.1%)
5. リズム感がよい	51名 (52.0%)	56名 (57.1%)
6. 歌える歌のレパートリーが多い	53名 (54.1%)	54名 (55.1%)
7. 生活の中の音に耳傾け音の面白さ気づく	51名 (52.0%)	>34名 (34.7%)
8. 手・指遊びが上手である	53名 (54.1%)	>16名 (16.3%)
9. 音楽を愛好する心情と感性を持っている	36名 (36.3%)	39名 (39.8%)
10. 響きのあるきれいな声で歌う	29名 (29.6%)	<47名 (48.0%)
11. 子どもの気持ち読取り音楽行動結び付る	39名 (39.8%)	34名 (34.7%)
12. 個々の子どもの音楽的能力を把握できる	24名 (24.5%)	<44名 (44.9%)
13. 創造的に音楽に関わり音楽活動に意欲がある	24名 (24.5%)	33名 (33.7%)
14. 手・指遊びの創作やアレンジができる	49名 (50.0%)	>16名 (16.3%)
15. 音楽の要素構造と曲想の関り説明できる	16名 (16.3%)	<35名 (35.7%)
16. 鍵盤楽器 (ピアノ) 以外の楽器できる	10名 (10.2%)	<26名 (26.5%)

表4は、音楽的保育者観・教育者観について『非常に重要だと思う』『やや重要だと思う』『あまり重要だと思わない』『全く重要だと思わない』の4段階評定の内『非常に重要だと思う』と回答したものである。『非常に重要だと思う』と回答した項目をあげると「音楽に合わせて体を動かす」「生活の中で耳にする音や音楽の関わりを大切にする」「手・指遊びの創作やアレンジができる」「手・指遊びが上手である」は保育者が高い (ps<.05)。「音楽指導の中で個々の子どもの音楽的能力が把握できる」「音楽の要素や構造と曲想の関りを感じ説明できる」「響きのある綺麗な声で歌う」「鍵盤楽器以外の楽器ができる」は教育者が高い (ps<.05)。手・指遊び・体を動かすことができるといった技能的なものは保

育者を重視し、子どもの音楽的能力の把握・音楽の要素・構造のかかわりの説明ができるといった資質は教育者を重視している。音楽の専門性を教育者に対して求めていると推察される。

IV. まとめ

子どもが教育・保育者によって準備された適切な魅力ある身の回りの環境の中で、音や音楽を楽しむようにし、生活の中でよく耳にする音や音楽にかかわりを大切にすることは乳幼児期も児童期も同じであると考えられる。

幼小連携と言われて久しいが、音楽の授業は小学校において週1時間から1.5時間しか確保できていない。幼稚園・保育所・こども園においては毎日のように音楽活動を行う園が多い中で保育者が子どもの生涯音楽活動の基礎を培っているという観点を持っていない。今回の調査では総数119名の中で有効回答数が98名と23名の無効回答があった。「大学の授業」「教育・保育観」「教育者・保育者観」の4段階評定を教育者（小学校）の欄で空欄にする保育者が目立つ。保育者が幼稚園や保育所やこども園卒園後の小学校音楽教育を想定しておらず、全く別の教育機関と考えているのであろうか。

保育者が幼児期という敏感期の音楽教育がいかに大切であるか気付き、その意識を明確に持つことが、幼児期に楽しく音楽に関り音楽を愛好する心情と感性を育てることにつながる。乳幼児の自発的な音楽表現はそれぞれ意味を持ち、その行動は幼児期から児童期と徐々に発展していくものである。

幼児期と小学校低学年の音楽活動に壁を感じることなく、幼児期と同じように児童が生き生きと音楽できることが求められる。

今後、発達の連続性を踏まえた音楽意識調査を継続して行い、小学校音楽教育を見据えた上で、保育者目線で子どもの気持ちに沿った豊かな情操を養う音楽活動のできる学生を育てていきたい。

教科音楽と音楽科指導法の授業において、乳幼児期と児童期の発達を考慮に入れながら、学生の音楽的素養を活かすことのできる音楽カリキュラムを作成し、学生自身が音楽を楽しめる授業展開を考えたい。

引用文献

- 星野英五 2009 「本学学生の音楽意識—短期大学と四年制大学の比較から—」 名古屋芸術大学研究紀要第30巻 pp. 393-398
- 星野英五 2011 「幼保小の連携に即した授業の考察—保育者希望と小学校教諭希望の音楽意識の違いから—」 名古屋芸術大学研究紀要第32巻 pp. 311-317
- 星野英五 2012 「学生の音楽意識 I—保育者と小学校教諭との関わりから—」 日本保育学会第65回発表論文集 p. 546
- 星野英五 2013 「幼保小の連携に即した授業の考察—小学校音楽科教育をにらんで—」 名古屋芸術大学研

究紀要第34巻 pp. 295-303

星野英五 2014「学生の音楽意識—幼少時代の音楽嗜好から—」日本保育学会第67回発表論文集 p. 956

星野英五 2015「幼保小の連携に即した授業の考察Ⅱ—小学校音楽科教育をみすえて—」名古屋芸術大学
研究紀要第36巻 pp. 233-240

星野英五 2016「学生の音楽意識—保育者の意識との関わりから—」日本保育学会第69回発表論文集 p.
785

参考文献

「2011年度改訂版小学校音楽科教育法」有本真紀他編著 教育芸術社

「小学校音楽科の学習指導」小島律子監修 廣済堂あかつき

「表現Ⅱ音楽表現」岸井勇雄他 チャイルド本社

追記 本稿は、日本保育学会第69回大会発表論文集「学生の音楽意識—保育者の意識との関りから—」
を転載・改稿したものである。

質問紙

I. あなたの性別と勤務先と免許・資格所得について

① 1. 男性 2. 女性

② あなたの勤務先は、現在どれにあてはまりますか。

1. 公立幼稚園 2. 私立幼稚園 3. 公立保育所 4. 私立保育所 5. 小学校 6. その他

③ あなたはどの資格・免許を取得しますか。あてはまるものを選んで右欄の数字にいくつでも○をつけて下さい。

1. 幼稚園教諭免許 2. 保育士資格 3. 小学校教諭免許 4. その他

④ あなたの教育・保育者としての経験年数を教えてください。

II. 子どもの幼稚園・保育園時代と小学校の音楽活動の考え方について

① 子どもの幼稚園・保育園時代の音楽活動は、どんな存在であることが望ましいと考えますか。自由に書いてください。

② 子どもの小学校時代の音楽活動は、どんな存在であることが望ましいと考えますか。自由に書いてください。

③ 子どもの幼稚園・保育園時代の音楽活動と小学校の音楽活動はどのように違うと考えますか。

III. 教育者養成（小学校）・保育者養成（保・幼）の大学の授業について（あなたの勤務先に関わらず両方答えて下さい）

教育者・保育者にとって音楽活動をする上で、以下の項目をどの程度重視した方がよいと思いますか。

4「非常に重要だと思う」、3「やや重要だと思う」、2「あまり重要だと思わない」、1「全く重要だと思わない」の中から保育者（幼・保）教育者（小学校）に分け1つずつ選んで○をつけて下さい。

(1)子どもに合わせて伴奏ができる（ピアノ・エレクトーンで）(2)音程やリズムに気をつけて歌える

(3)歌詞の内容や曲想を味わい表現工夫をし歌える (4)幅広く主体的に音楽鑑賞する

(5)わらべ歌で遊ぶ (6)音楽理論が分かる

(7)タンブリンや色々なリズム楽器を扱う (8)絵本や詩にメロディーをつけることができる

V. 教育・保育について

あなたの考えている教育・保育に、次の項目はどの程度あてはまると思いますか。または必要だと思いますか。

4「非常に思う」、3「やや思う」、2「あまり思わない」、1「全く思わない」の中から保育者（幼・

保) 教育者 (小学校) に分け1つずつ選んで○をつけて下さい。

- (1)音楽的リズム活動は子どもの心身の発達に大きく影響する
- (2)楽しく音楽にかかわり音楽に興味・関心を持たせる
- (3)音楽環境が子どもの心理状態に影響する
- (4)自分で感じ考えた事をそのまま動きのリズムで表現する
- (5)おだやかなメロディーは優しさや思いやりをはぐくむ
- (6)わらべ歌遊びは、日常的にとり入れるようにする
- (7)合奏指導は、幼児期に体験させるようにする
- (8)ピアノなどのおけいごとは幼児期からとり入れるようにする
- (9)鑑賞曲は、時間の短いもの、子どもに分かり易いものを選ぶ
- (10)歌の歌詞に表す情景や気持ちを想像することができるようにする
- (11)音楽発表会は、日常的な活動からむすびつける
- (12)歩く走るスキップなどリズムミカルな動きを楽しむ
- (13)子どもの生活の中でよく耳にする音や音楽の関わりを大切に
- (14)CDなどの音響機器は音質のよいものを選ぶ
- (15)楽しさ活発さ静かさ優美さなど曲の感じがわかるようにする

V. 保育所・幼稚園・小学校の先生のあり方について

あなたは、保育所・幼稚園・小学校の先生とついで、次の項目はどの必要であると思いますか。

4「非常に重要だと思う」、3「やや重要だと思う」、2「あまり重要だと思わない」、1「全く重要だと思わない」の中から教育者(小学校)・保育者(幼・保)に分け1つずつ選んで○をつけて下さい。

- (1)音楽が好きである(歌うことを楽しむ・鑑賞などする等)
- (2)生活の中にある音に耳を傾け音を探し音の面白さに気付く
- (3)創造的に音楽に関わり音楽活動に意欲がある
- (4)子どもの気持ちを読み取り音楽活動に結びつけることができる。
- (5)音楽指導の中で個々の子どもの音楽的能力を把握できる。
- (6)音楽を愛好する心情と音楽に対する感性を持っている。
- (7)子どもの発達に合った音楽指導ができる。
- (8)音楽の要素や構造と曲想の関わりを感じ取り言葉で説明できる。
- (9)歌える歌のレパートリーが多い。
- (10)響きのあるきれいな声である。
- (11)鍵盤楽器(ピアノ・エレクトーン)以外の楽器ができる。
- (12)手・指遊びの創作やアレンジができる。
- (13)手・指遊びが上手である。
- (14)リズム感がよい。
- (15)子どもに合わせて伴奏ができる(ピアノ・エレクトーンで)
- (16)音楽に合わせて体を動かすことができる。

どうもありがとうございました。